

CONTENTS

- 2 溫かい一言で始まる家庭の幸せ……………イ・ヨンフン牧師
- 4 今日のマナ……………チョウ・ヨンギ牧師
 - ・環境を変えさせる祝福
- 7 メッセージ ………………志垣重政牧師
 - ・「マケドニヤに渡ってきて、私達を助けてください」
- 10 企画 | 知られざるチョー・ヨンギ牧師の話……………
 - ・ヨイド純福音教会 創立 64 周年編集篇
 - パク・ジョンヒ『しなんげ』社長
- 31 ユ・ジョンオク牧師婦人の信仰物語……………
 - ・飢饉の中でのエリヤ（II）
- 37 靈的リーダーシップ ………………イ・ヨンフン牧師
 - ・自分を捨てる指導者
- 42 読み直す山里からの手紙 ………………デ・チョンドク神父
 - ・親を敬うことで受ける祝福
- 48 レビ記ライフ ………………カン・デウィ牧師
 - ・らい病と清め

この「しなんげ」は、おもに韓国版信頼界 2022 年 5 月号より抜粋して、翻訳し再構成したもの。ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

温かい一言で始まる 家庭の幸せ

イ・ヨンフン牧師

私がアメリカに住んでいた時のことです。家出した子どもと両親を電話でつなぐテレビ番組が放送されていました。ある番組で、数年前に家出した娘と電話していた母親が泣きながら娘に安否を尋ねていました。娘は冷たい態度で次のように答えていました。「お母さんが私を愛しているの？ 私に出て行けと言ったじゃないか！」

夫婦げんか中に入ってきた娘が話しかけると、感情が高ぶっていた母親は「出ていけ！ 見たくないから！」と思わず怒鳴ってしまい、その後に娘は本当に家出しました。日常生活の中で会話がほとんどなかつた娘は「母は本当に私のことが嫌いだ」と思い込んでしまったのです。

母親が「あの時に言ったことは本気ではなかった。私が悪かった！」と泣きながら話しましたが、傷ついていた娘は心をなかなか開かなかつたのです。間違つた一言がその家庭に大きな不幸をもたらしました。

5月は家庭の月です。家庭は神様からの贈り物で、家族は神様が結ばせてくださった大切な人たちです。この家庭の幸せを守るためには、何よりも言葉に気をつけなければなりません。「家族だから、何でも話してもいいだろう」と考えてはいけません。親しき仲ほど、家族ほど、否定的な言葉は控え、感謝、愛、激励などを積極的に表現しなければなりません。

「このような私でも愛してくれて、ありがとう」「つらい時にそばにいてくれて、ありがとう」「今日はお疲れ様でした」「よくやっているよ。愛してる」「大丈夫だよ」「私はいつもあなたの味方だ」「本心ではないのに、一瞬怒ってごめんね」

このように温かい言葉を両親に、配偶者に、子供に語ってください。家庭の幸せは温かい一言から始まります。†

＊今日のマナ



環境を変えさせる祝福

チョー・ヨンギ 牧師
(1936 ~ 2021)

「悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい」（第一ペテロ 3:9）

人は誰でも祝福を望みます。しかし、祝福は空から落ちてきたり、地から湧いたりするものではなく、いつでも環境を通して近づいてきます。祝福の環境に変わらない限り、祝福を期待することはできません。環境が私たちに何ももたらさないと、人々は「私は運がない」と諦めて絶望してしまいます。

しかし、環境を変えさせる驚きの秘密があります。この秘密を知って、そのまま実践するだけで、呪いの環境から祝福の環境へと簡単に変えることができます。その秘密とは、他人を祝福することです。他人の祝福を真心から祈るとき、その祝福は自分自身に戻ってきます。口から出てくる祝福のことばは、私たちと家庭

に驚くほどの影響を及ぼします。

ある夫人の証です。彼女の夫は山に夢中になって、春から秋までは山に住み込み、冬の間だけ戻ってきます。生活費と教育費を払わないのはもちろんのこと、安否を尋ねる手紙一枚すら書かないような人でした。一人で子どもを育てて家事を切り盛りすることは、並みならぬ厳しさがありました。それで彼女は人に会うたびに夫の悪口を言っていました。

ある日、彼女はイエス様を信じるようになりました。聖書を読んでいると、「もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい」（ローマ 12:20）の箇所が彼女の心に迫ってきました。彼女は神様の御前で悔い改め、その後からは誰に会っても夫のことを自慢し、賞賛して、夫のために祝福の祈

りを捧げました。何日も経たないうちに夫から心温まる手紙が届きました。彼女はさらに夫のことを祝福しました。今度は生活費が送られてきました。しばらくすると、夫は放蕩生活を終えて、完全に家に戻ってきました。

神様の御言葉を実践する人は、御言葉の力を体験します。神様が理由もなく、「敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい」とおっしゃることはあります。敵を祝福すると、敵から毒が抜けて穏やかになり、私たちに利益をもたらします。すべての環境がこのように利益をもたらすなら、祝福されないわけがありません。「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福して、のろってはならない」(ローマ 12:14)とあります。今日から祝福のことばを語ってください。祝福したくない状況であれば、なおさらもっと祝福してください。そうすると、その祝福はあふれるものとなって返ってきます。†



メッセージ

志垣重政 牧師 純福音東京教会



「マケドニヤに渡ってきて、私達を助けてください」

——マタイによる福音書 28章1～7節——

それから彼らは、アジヤで御言を語ることを聖靈に禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤ地方をとおって行った。そして、ムシヤのあたりにきてから、ビテニヤに進んで行こうとしたところ、イエスの御靈がこれを許さなかった。それで、ムシヤを通過して、トロアスに下って行った。ここで夜、パウロは一つの幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が立って、「マケドニヤに渡ってきて、わたしたちを助けて下さい」と、彼に懇願するのであった。パウロがこの幻を見た時、これは彼らに福音を伝えるために、神がわたしたちをお招きになったのだと確信して、わたしたちは、ただちにマケドニヤに渡って行くことにした。

十字架に架かられた日から数えて50日目にマルコの屋根裏部屋で熱心に祈っていた120門徒に聖靈が降りました。「突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりひとりの上にとどまった。すると、一同は聖靈に満たされ、御靈が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した」(使徒行伝)。この大事件と私たちとの間にどんな関係があるのでしょうか。

弟子たちは、その一生をイエス様に託しましたが、『十字架に架かられる』と聞き、怖れと不安と失望を覚えました。それは、子どもが突然父母を失うのと同じ感覚でした。その時、イエス様は父にお願いして別の助け主聖霊様を遣わす約束をされ、決して孤児とはせず、必ず戻って来ると宣言されました。五旬節の聖霊降臨は、イエス様の約束の履行であり、弟子たちが孤児ではなくなったことを証しています。聖霊様は、キリストの靈であり、同時に神様の靈です。聖霊様は、心の中の孤独・不安・絶望を信仰・希望・愛に変えることのできるお方なのです。

アダムとエバの犯罪により人の靈は死に、ただ土に帰るだけの存在になりましたが、イエス様が人類の罪・呪い・病・死を背負い、十字架で贖われ、復活されたことにより、私たちの靈をよみがえらせてくださいました。聖霊様を受け容れる器が復活したのです。聖霊様に満たされたとき、私たちはキリストを証しせずにはいられなくなります。聖霊様は福音を証しする靈だからです。「わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御靈が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう」(ヨハネ 15:26)。主を三度も知らないと否定したペテロが聖霊に満たされたとき、一日に三千人の人たちが悔い改め、バプテスマを受けたとあります——「そこで、彼の勧めの言葉を受けられた者たちは、バプテスマを受けたが、その日、仲間に加わったものが三千人ほどあった」(使徒 2:41)。また、弟子たちが伝道すると日に男だけで五千人がイエス様を受容されたとあります——「しかし、彼らの話を聞いた多くの人々は信じた。そして、その男の数が五千人ほどになった」(使徒 4:4)。女性たちを含めて日に数万人が悔い改めたのです。

また、聖霊様は癒しの靈でもあります。ペテロが聖霊降臨後に聖殿の美し門で物乞いをしていた者に「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」(使徒 3:6)と宣言した瞬間、足なえが癒されました。他の弟子たちも大胆な癒しを願し、迫害されサマリヤに散らされたピリポが福音を宣べ伝え、多くの人を癒しました。すべてが癒しの靈である聖霊様による御業でした。「信じる者には、このようななしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」(マルコ 16:17～18)とありますが、聖霊様を信じれば、病が癒されるのです。二千年前に癒しの靈として来られた聖霊様が今も働いておられます。

そして、聖霊様は宣教の靈であることを知りましょう。パウロがアジア宣教を意図したところ、聖霊様はそれを禁じ、幻を通してマケドニヤに行くことを決心させます。聖霊様は宣教戦略をお持ちだからです。この戦略により約300年後に欧州が完全にキリスト教化されました。更にドイツを経由して英國に、そしてアメリカが経由して韓国に聖霊運動が起きました。ヨエル書2章23節にある『後の雨』です。韓国が宣教師派遣において世界一になったのも聖霊様による戦略なのです。今、私たちがそのバトンを引き継いでいます。私たちの教会が、神の靈・キリストの靈である聖霊様に満たされ、福音を伝播し、癒しを体験し、21世紀の宣教の原動力になることができますように主の御名によってお祈りいたします。†

ヨイド純福音教会 創立 64 周年編集篇

文 | パク・ジョンヒ 『しなんげ』社長



2022 年 5 月にヨイド純福音教会は創立 64 周年を迎えました。64 年の長い間にわたりヨイド純福音教会を守ってくださったこと、チョー・ヨンギ牧師とイ・ヨンフン牧師を通してリバイバルを起こしてくださったこと、すべての聖徒に限りない愛と恵みを与えてくださったことを神様に感謝します。

ヨイド純福音教会の 64 年間の教会史において、多くの聖徒が「教会が西大門から汝矣島へ移転したこと」を一番重要な出来事

として挙げています。確かに、教会移転はとても特別な出来事であり、明らかに神様の導きによるものでした。

ところが、チョー・ヨンギ牧師は、1961 年にデゾ洞から西大門へ、つまり、ソウル郊外から中心地域に進出したことを重要な出来事として取り上げたことがあります。

チョー牧師にとって 1961 年はいろいろな大事件が重なり、特別な年となりました。その年に、ジョン・ハストン宣教師の援助を受けて、西大門での第二の教会がスタートしました。チョー牧師は、この感動的な出来事について、神様にしかできない方法で、自分はただ夢を描きながら従順しただけだと告白しました。

デゾ洞で教会を開拓してからの 3 年間で、在籍聖徒数 400 人の教会へと成長しました。礼拝堂を新築する敷地も決まり、チョー牧師は希望を持って 1961 年の新年を迎えました。ところが、新年から事件が続けて起こり、すべての計画が水泡に帰し、大きな危機に見舞われました。

チョー・ヨンギ伝道師が神様からどのような方法で救われたのか。そして、西大門で第二の開拓をするまで、どのような導きがあったのかを知るために、1961 年に起きたことを調べる必要がありました。

その作業は簡単ではありませんでしたが、たくさんの資料をできる限り検証し、真実に近い内容を伝えようと努力しました。膨大な量のストーリーのため、今回は前半の部分のみをお届けします。

一 チェ・ジャシル執事とチョー・ヨンギ 部 学生の運命的な出会い

異言の賜物を受けたチェ・ジャシル執事

1956年の春、当時42歳だったチェ・ジャシル執事はとても不幸な境遇に置かれていました。愛する母と娘の突然死、ビジネスの失敗、そして、夫との不仲などの試練が続きました。夜になっても、睡眠薬がないと眠ることができませんでした。そして、小さい頃に母と一緒に参加したリバイバル聖会で得た信仰もすっかりと冷めっていました。

実業家として成功していた時期もありましたが、彼女のプライドはすでに崩れ、心身ともに疲れて病んでいました。他人に見つからないところで静かに死のうと、ソウルにある三角山に登りましたが、それも失敗します。自殺すると地獄に行くと思ったからです。ただ、彼女はたまたまその近くで開催されていた三角山リバイバル聖会に参加することになりました。リバイバル聖会の講師は、彼女が小さい時からよく知っていて、尊敬していたイ・ソンボン牧師でした。

リバイバル聖会の3日目、悔い改めの涙が止まることなく流れ、祈りがずっと出てきました。その後、初めて異言を語るようになりました。普段は長く祈ったことがないのに、意味不明の言葉が続けて出て、祈りを止めたくても止まりませんでした。

一晩中、涙をぽろぼろと流しながら、大声で叫び祈りました。早朝に目を開けてみると、周辺の人々から話しかけられました。

「異言がすごく流暢ですね」
「執事、おめでとうございます」

見知らぬ人々からそう言われて少し気まずかったのですが、心の深いところから喜びがあふれてきました。「今までの私の信仰は本物の信仰ではない」と思いながら、外に出ていきました。三角山の下に広がる景色がとても美しく見えました。彼女は一晩で新しい人として生まれ変わったのです。

チェ・ジャシル執事はリバイバル聖会が終わったあと、破産したビジネスを片付け、神学校に入つて伝道師になると決心しました。そして、神学校入学と卒業後の働きを相談しようと、イ・ソンボン牧師を尋ねました。



イ・ソンボン牧師のアドバイスを受け、純福音神学校に入学する

久しぶりに会ったイ・ソンボン牧師は、チェ執事を笑顔で迎えてくれました。チェ執事は今までの経験を話しました。真面目で冷静なイ牧師は彼女の話を聞いたあと、意外なことを言いました。

「神学校に行くと良く決心したが、私が所属しているホーリネス教団の神学校に入学したら、すぐに追い出されます。チェ執事は異言を語ります。異言は聖書に書かれているから私は賛成するけど、ホーリネス教団は異言を否定しています。だから、おすすめできないのです」

この話だけでも、当時の韓国キリスト教会が表した聖靈運動や異言への拒否感がひどいものであったことが伝わってきます。イ牧師は落胆しているチェ執事にアドバイスをしました。

「西大门にはアッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団が運営する純福音神学校があります。一回行ってみてはどうでしょうか？そこには異言を語る人が多いと聞いています」

後日、チェ・ジャシル牧師は当時のことを次のように語ったことがあります。

「異言をあきらめたら、ホーリネス教団の神学校に入学できると言われました。ですが、それは私には無理でした。その時の私は異言で毎日祈っていましたし、異言で祈ると、元気になり、新しい勇気が湧いてきたからです」

チェ・ジャシル執事は仕方なくイ・ソンボン牧師から教えてもらった純福音神学校に足を運びました。名前すら知らなかつた学校ですが、一筋の希望をつかんで行ってみました。その後、純福音神学校に入学するために勉強し、祈りでも準備しました。そして、その年の9月に合格し、純福音神学校に入学することになったのです。

42歳のおばさんと21歳の夢のある青年との運命的な出会い

チェ・ジャシル執事は純福音神学校で思わぬ幸運を得ました。後日、牧会の同役者になる人、義理の息子になる人、すなわち、チョー・ヨンギ学生との出会いです。

42歳のおばさんと21歳の夢のある青年との出会いは、ただの出会いではありませんでした。9年後に義理の息子、教会開拓の同役者になる人との出会いでした。しかも、この出会いが韓国教



会の歴史を変えるほどの出会いになるとは、二人とも想像すらしていなかったはずです。

チョー・ヨンギ学生は肺結核にかかって死にかけたとき、神様からいやされた体験がある青年です。賢い彼は、二人の宣教師に書いてもらった推薦書を持って、神学を勉強するためにソウルに上京しました。頭が良くて、勉強好きで、特に英語が得意だった彼は、神学教授でありながら、牧会もする牧師になる可能性が高かったのです。

異なる人生の歩みと21歳の年の差にもかかわらず、二人は信仰の点で気が合いました。神様の恵みにより生き返った経験と確実な召命という共通点があったからだと思います。チョー・ヨンギ学生は学生会長として、チェ執事は伝道部長として、毎週末と一緒にパゴダ公園で伝道するようになると、さらに距離が縮まりました。

二人は純福音神学校で「ペンテコステ信仰と神学」の伝統的な教育を受けました。短い期間ではありましたが、一生懸命に勉強したおかげで、二人は理論的かつ実践的な実力をかなり身につきました。

卒業後、再会した二人

1958年3月15日、第4回卒業式後の記念撮影の際、伝道師になった二人はこれからも頻繁に連絡することを約束しました。卒業後、予想通りに二人の進路は分かれました。チョー・ヨンギ伝道師はもっと神学の勉強がしたいと願っていました。優秀な主の



僕となるためには、実力を養わなければならないと思ったからです。ハン・ギョンジク牧師のようなアメリカ留学を希望し、ゾンストン宣教師の援助を受けながら、アメリカ留学の準備を進めていました。

一方、チェ・ジャシル伝道師の進路は思うように開けませんでした。彼女は捨てられた孤児があまりにも可哀想で、自分で孤児院を運営する決心をしました。卒業前から準備を進めていたため、最初は順調でしたが、卒業後に詐欺に遭ってしまい、今までの努力がすべて無駄となりました。失意に陥った彼女は自分を責めながら、元気なく過ごしていました。

このように違う道を歩んでいた二人が何をきっかけにして一緒になり、教会を開拓したのかは、『答えられなかったアメリカ留学の夢』の記事で詳しくお伝えしていますので、その経緯については省略します。

聖靈が炎のように働いた、デゾ洞の開拓教会

1958年5月18日の夜、デゾ洞のチェ・ジャシル伝道師の自宅において、チヨー・ヨンギ伝道師が説教者となって捧げた初めての礼拝が開拓の始まりです。しばらくすると、家の前で天幕を張って礼拝を捧げるようになり、天幕教会と呼ばれるようになりました。

その当時、教会があったデゾ洞の山のふもとは、ソウル郊外にある貧困地域でした。当時の韓国は朝鮮戦争のため疲弊しており、最も貧しい国のひとつでした。そんな韓国の中でもデゾ洞は貧困村だったので、デゾ洞の住民の生活は見ていられないくらい悲惨なものでした。彼らは飢えと病気と犯罪の中で希望を失い、絶望的な人生を生きていました。人間の力では到底伝道ができない町でした。



しかし、二人の伝道師は昼も夜も祈りながら伝道しました。まさに激しい靈的戦争が繰り広げられていました。異言の祈りと断食祈りの経験が豊富な二人が切に叫び祈りましたが、一ヶ月間は何の変化もありませんでした。しかし、一ヶ月もの涙の祈りが積り、ついに聖靈の働きが炎のように現れました。最初はいやしの御業が起こりました。中風で7年間動けなかった女性が完全にいやされたのです。祈った二人もびっくりするくらい、素晴らしい奇跡でした。

その時から塞がっていた伝道の門が開かれました。噂を聞いた人々が教会に来るようになりました。最初は近所の住民だけでしたが、遠くから来る人も徐々に増えていきました。

チヨー・ヨンギ伝道師は、福音を受け入れると、靈的な問題だけでなく、物質と生活の問題まで解決されるという祝福の御言葉を宣言しました。聖徒が少なくとも、いつも大きな声で力強く福音を宣べ伝えました。チヨー伝道師のメッセージは、苦痛の中にいる人々に大きな慰めと希望を与えるました。

中風がいやされ、酔っ払いがいやされ、悪魔に取りつかれていた占い師がいやされ、貧しくて絶望的だった人が希望的になるなどの奇跡が続き、聖徒の信仰は深まっていきました。そして、在籍聖徒数も急速に増えていきました。1960年末には在籍聖徒数400人の教会へと成長しました。当時、これほどのリバイバルはあり得ないのことでした。完全な聖靈の御業であり、チヨー・ヨンギ、チェ・ジャシル伝道師の二人がもたらした相乗効果でもありました。

そして、常に不足していた教会の財政にも奇跡が起きました。神様の恵みで心臓病がいやされたある執事が巨額の感謝献金を捧げたのです。その感謝献金で教会を立てる土地 600 坪を購入したとき、全聖徒が喜びながら神様に感謝を捧げました。†

二部 危機に瀕したチョー・ヨンギ伝道師とリバイバルの機会を得た韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団

テジョドン開拓教会とチョー・ヨンギ伝道師に迫った危機

1961 年、教会を新築する希望に満ちた新年を迎えるました。ところが、年初から大きな危機に見舞われたのです。一枚の郵便物を受け取ったチョー・ヨンギ伝道師は茫然自失してしまいました。ノンサン訓練所への入営通知書でした。まさに青天の霹靂で、1961 年 1 月 3 日は永遠に忘れられない日となりました。

開拓を始めてから 3 年も経っていないのに、これから 3 年間は軍隊に行かなければならぬのです。これまで死ぬ気で苦労をして、教会がやっと成長の段階に入ったところなのに、突然すべてが水泡に帰すようでした。若い青年に入営通知書が届くのは当然だろうと思うかもしれません、実はそうでもないのです。チョー・ヨンギ伝道師が神学校時代に身体検査を受けたとき、X 線写真には肺病の後遺症が鮮明に写っていました。また、体もか

なり衰弱していたため、軍隊召集の対象者ではなかったのです。チェ・ジャシル伝道師もその話を聞いて知っていました。そのため、誰もが入隊は全く予想していなかったのです。

身体検査を受けてからの 5 年間で規定が変わったようです。それでも 26 歳で入営通知書を受け取るのは不思議な話でした。しかも、入隊日まで一ヶ月を切っていましたので、教会に仕える牧会者を急いで探しなければなりませんでした。しかし、適任者は誰もいません。異言といやしを強調する教会だったので、牧会する自信がない、信仰の方針が合わないという反応でした。

チェ・ジャシル伝道師が代わりに牧会することも難しかったのです。もちろん、チェ伝道師は祈りと戸別訪問伝道に優れた賜物を持っていましたが、当時は女性牧会者が一人で牧会することは否定的に受け止められていたのです。天幕教会の聖徒たちも例外



ではありませんでした。

すると、神様がジョン・ハストン宣教師を送ってくださいました。宣教師は困難な状況でも喜んで力になると約束しました。入隊3日前の出来事でした。切に叫んだ祈りが24日後に実を結んだのです。チョー・ヨンギ、チェ・ジャシル伝道師は神様に感謝しました。

1月30日、チョー・ヨンギ伝道師はノンサン訓練所に行くための入営列車に乗りました。チョー伝道師の心には教会への心配だけがありました。逆にチェ・ジャシル伝道師と教会の聖徒たちは、彼の健康が心配でした。これまでの過労により健康状態が良くなかったからです。

チョー・ヨンギ伝道師と韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団にとって歴史的な年となった1961年

チョー・ヨンギ伝道師にとって、1961年はジェットコースターのような一年でした。新年早々の入営通知書から始まり、一ヶ月も経たないうちに軍隊に行くことになり、寒い冬の訓練は過酷であり、とにかく良くないことが続々と生じました。年初から危機の連続でした。しかし、危機的な状況であっても、不平不満を言わずに祈り続けていれば、笑顔で年末を迎えることができると信じていました。

チョー・ヨンギ伝道師にとって1961年は危機的だった一方で、

韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団にとっての1961年は機会であり、跳躍の一年でした。教団のリバイバルのために特別に準備した事業のすべてが1961年に集中していました。どれも必ず成功させなければならない重要な事業でした。

しかも、教団が予定していた事業とチョー伝道師の働きは直接相互に関わっていたのです。そのことを理解するために、韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団の歴史について少し解説していきます。

1953年4月8日、韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団が創立されました。アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団は他の教団と比べて歴史が浅い教団です。世界的なペンテコステ運動が始まったが、1906年のアズサ・リバイバル集会（米国）がきっかけだったからです。1885年に朝鮮に来た長老派のアンダーウッド宣教師やメソジストのアベンジエラー宣教師のような顕著な宣教師がいなかつたのもその理由の一つです。

実際、チョー・ヨンギ牧師が飛躍的な教会成長とともに世界に登場するまで、教団の歴史には特に誇るものはなかったのです。チョー牧師以前にも神様の御前に忠実な牧会者たちが働いていましたが、教団創立以前の散在的な活動に過ぎませんでした。

創立初期の韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団物語

韓国初のペンテコステ宣教師はメリー・ラムシー氏でした。彼

女は1906年にアメリカのアズサ・リバイバル集会で聖霊のバプテスマと異言を体験します。その後、「韓国へ行きなさい」というはっきりとした聖霊の御声を聞いて、彼女は教団からの後援なしに1928年に日本経由で韓国に来ました。そして、5年間宣教活動をしたのちにアメリカに帰国しました。

ホ・ホン牧師と1933年に建てられたソビンゴ教会などが、彼女が韓国に残した代表的な信仰遺産です。ソビンゴ教会は韓国初のペンテコステ教会として有名です。しかし、彼女が去ったあとでのペンテコステ運動は、日本の植民地支配下のキリスト教弾圧により、正しく成長することができませんでした。

韓国でペンテコステ教会が本格的にリバイバルしたのは1953年以降です。その年に教団が創立され、純福音神学校が開校しました。チエスナツ宣教師が韓国に来てから4ヶ月で教団創立が成し遂げられました。

ソウル・ヨンサンにあるナンプ教会で創立総会を開催したのが1953年4月8日。教会といえば、ホ・ホン牧師が所有していた2階建ての木造住宅の1階にある8坪ほどの小さな礼拝室だけでした。この日の出席者はチエスナツ宣教師を除けば、牧会者6人と参観者4人だけでした。教団という割には出席人数があまりにも足りませんでした。

しかし、始まりは小さくとも、出席者全員が教団発展の青写真を描きながら希望のある未来を夢見ました。初代総理（現在の総

会長）をチエスナツ宣教師が務め、アメリカのアッセブリーズ・オブ・ゴッド教団が積極的に支援する予定でした。

チエスナツ宣教師は、教団の総会長と純福音神学校の初代校長を兼職し、教団の未来を担う若い神学生の養成に力を注ぎました。ナンプ教会に臨時にあった神学校も1953年8月にソデムン交差点付近、現在のサムスンカンプク病院の場所に移転したこと、最初の頃と比べて環境が良くなりました。

その結果、1955年3月の第1回卒業生は5人だけでしたが、翌年の第2回卒業生は18人にもなりました。そして、教団の未来を担う逸材が1956年に入学します。21歳のチョー・ヨンギ学生でした。彼は入学してすぐに第2代校長ステツ宣教師の講義とメッセージの通訳を務めるなど、英語力が高く認められました。その後は教団行事の通訳をすべて担当しました。ステツ校長はチョー・ヨンギ学生の才能を見抜いて以来、長期間にわたる物心両面での支援を惜しみませんでした。

創立4年で教団に吹き荒れた危機

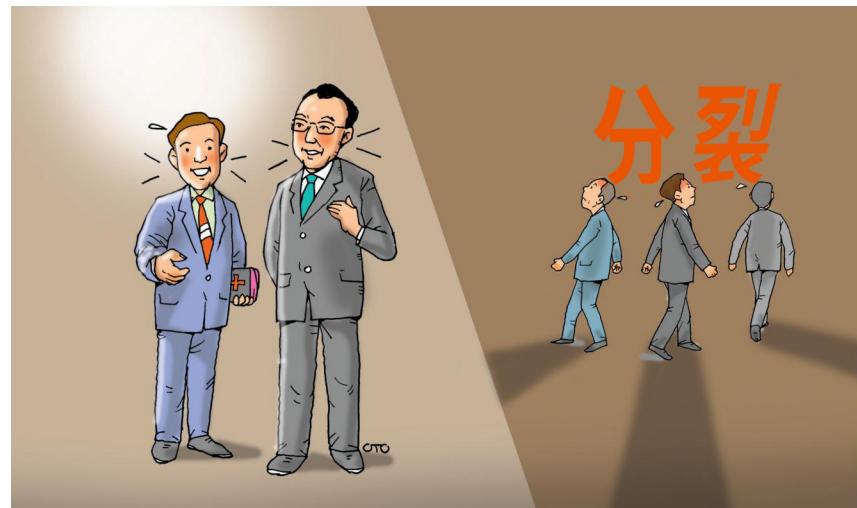
韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団が少しづつ成長していた頃、チョー・ヨンギ学生が卒業する前年の1957年11月、創立4年目にして教団分裂が起きました。大きな危機であり、神学生たちは動搖するほかありませんでした。

教団の創立時から3つのグループが存在していましたが、結局、

争いが生じてしまい、ホ・ホン牧師が大韓ペンテコステ教会に移転し、クアク・ボンジョ、ユン・ソンドク牧師などもイギリス出身の宣教師と協力し合うようになり、テジョン地域で新しい神学校を建設し、「極東使徒宣教会」として独立しました。ちなみに、大韓ペンテコステ教会は1972年に再統合され、ホ・ホン牧師は戻ってきています。

創立総会に出席した牧会者6人のうち、教団創立に大きく貢献したパク・ソンサン牧師が1年前に天に召され、そこから中核をなす3人が脱退したため、活動を大きく縮小させるしかありませんでした。特に教団の代表的人物であるホ・ホン牧師さえ脱退したこと、その衝撃と混乱がしばらく続きました。

しかし、教団の方向性について意見の差が大きかった人々が独立したことは、かえってよかったです面もありました。将来、アメリ



カの宣教師が主導的に活動する際に、障害になったであろう要因が早めに取り除かれたからです。実際、教団分裂以降、宣教師たちと神学生を中心に教団がさらに団結した姿を見せることで、分裂の傷は次第にいやされていきました。

考えてみると、純福音神学校第4期卒業生であり、満30歳の若きチョー・ヨンギ牧師が、1966年5月に第12代総会長に選出されたのも、年上の中堅牧師が教団から脱退していたからかもしれません。もちろん、実際にはソデムン純福音中央教会の驚くべきリバイバルの功績が大きかったのですが。

危機克服のための三つの宣教重点事業

教団分裂の歴史に引きずられることなく、韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団は1960年の年初から積極的に活動しました。1960年代を跳躍の時代にするという決意をもって、宣教事業について集中的に議論していました。

その中心人物は前年末に良いニュースを持って訪韓したメイナード・ケッチャム牧師でした。彼はアメリカのアッセブリーズ・オブ・ゴッド本部所属のアジア宣教部長として非常に戦略的で影響力の大きい人でした。

彼が持ってきた良い知らせとは、アメリカのアッセブリーズ・オブ・ゴッド本部が韓国を「宣教重点国」に指定して、韓国宣教を強化するという内容でした。韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド

ド教団の分裂によって、宣教実績が停滞しているのを打開するための対策でした。「宣教重点国」に指定されるとは、宣教師の支援はもちろん、巨額の宣教費を韓国に集中投資して、新しい宣教事業を推進するという意味でした。

三つの重点事業が選定されましたが、その内容は次のとおりです。一つ目は、ソデムンにあった純福音神学校をテジョドンに新築移転する事業。この事業は迅速に行われ、1960年3月5日には新築着工式を行い、翌年の1961年春にはテジョドン神学校が開校しました。

二つ目は、アメリカ本部からリバイリストを派遣して、大リバイバル集会を開く事業です。翌年の1961年秋に集会の開催を決め、準備に総力をあげることにしました。この聖会を通して韓

国に「ペンテコステ聖霊運動」の風を起こし、教団を刷新してリバイバルの足場を作ろうとしました。

三つ目は、純福音リバイバル会館を設立する事業です。交通の要地であるソデムンロータリーに土地を購入することにしました。これは当時としてもかなり大きな資金がかかる重大な事業でした。当年予算を組んで敷地を購入し、翌年の1961年に着工することを目指しました。

リバイバル会館建設事業とチョー・ヨンギ伝道師

三大重点事業はどれも重要でした。莫大な予算が投入されるこれらの事業は、韓国が宣教重点国に選定されたことがなかったならば、実現しなかったでしょう。韓国アッセブリーズ・オブ・ゴッド教団にとっては絶好の機会でした。

三大事業の中でもリバイバル会館の建設は本当に重要でした。アッセブリーズ・オブ・ゴッド国際本部が、世界の主要都市を集中攻略するという戦略的目標を立てて推進した事業だったからです。各国の大都市圏内の交通要所にリバイバル会館を建て、宣教活動の中心的役割を果たすというものでした。

1961年までは、この事業はチョー・ヨンギ伝道師とは何の関係もありませんでした。新築の建物を設計する際、礼拝堂を大きく設けることに決まってから変わったのです。将来、この礼拝堂を満員にできるほどの聖徒を集められる実力がある牧会者を探し



出し、その者にここを任せようというアイデアが出たのです。

この時、チョー・ヨンギ伝道師は有力な候補者の1人として浮上しました。総会本部の役員と宣教師たちはそれぞれの頭の中に1人ずつ推薦候補を思い浮かべていましたが、公に発表する人はまだいませんでした。誰がこの役を務めるのか次第では、教団発展が大きく左右されるほど、重要な事案だったからです。

説教がとても上手く、天幕教会を在籍聖徒数400人までに成長させた、チョー・ヨンギ伝道師が適任者であることは明らかでした。しかし、チョー伝道師の実力は群を抜いていても、牧師の按手を受けていない伝道師であり、25歳という若さが気がかりでした。他の先輩牧師が反発する可能性が大きかったのです。なお、チョー伝道師は翌年の1962年4月26日に牧師按手を受けます。

さらに、年齢よりも大きな問題がありました。それはチョー伝道師が軍の服務中だったことです。チョー牧師を任命したくても、当分の間は任命できなかったのです。1961年11月に竣工予定のため、彼が除隊するまで待っていたら2年間の空白期間が生じます。一時的に他の牧師に任せて、彼の除隊後に引き渡すことも考えられましたが、争いの種になりそうでした。

宣教師たちはチョー伝道師を推薦していましたが、人間の考えでは実現する方法がなく、不可能のように思われました。結局、チョー・ヨンギ伝道師は候補から外れたかのようでしたが、神様の計画は人間の考えとは異なりました。†（次号に続く）

* ユ・ジョンオク牧師婦人の信仰物語

飢饉の中での エリヤ（II）



先月に続き、私の人生に起きた「神様の介入」の証です

神様の四回目の介入

「紙一枚でも力を合わせて持てば軽くなる」ということわざとは裏腹に、韓国では他人との協力を嫌がる傾向があります。お互いの利害が一致せず、関係を裏切ることが数多くあるからです。しかし、ビジネスをするときは、神様と協業することを是非とも伝えたいです。神様は無限なる知恵を与えてくださるし、困難な状況では守ってくださるからです。また、正しい努力には報いてくださいます。日常のすべてを神様に相談して、従順し、正直に生き、所得に対する聖なる分配をしましょう。私は朝早く起きて、

一日の仕事をはじめる前に神様に一つずつ相談しました。

スカーフを生産して卸売りをしていたとき、スカーフ一枚を生産するのに、500 ウォンほどの製造コストがかかっていました。ところが、製造工程で少しでもキズができると、価値は急落してしまいます。このような不良品が多く発生し、製造コストを押し上げていました。私たちだけでなく、他の工場でもかなり多くの不良品が発生していました。「これをどうすればいいですか?」と祈っていると、幼い頃に見た汚れが目立ちにくくしづわが入っているスカートを思い出しました。

「そうだ! 傷がついたスカーフにしづわを入れてみよう」

傷がついたスカーフに機械でしづわを入れてみました。生地の原価が 500 ウォン、しづわの加工費が 100 ウォンで、スカーフの製造コストは合計 600 ウォンとなりました。ですが、デザインとしてしづわを入れることにより、2,000 ウォンを超える新商品のプリーツスカーフとして生まれ変わりました。

このプリーツスカーフはとても売れましたが、まとめて購入された方の中で一番記憶に残っている人がノ・ムヒョン大統領（故人）です。当時、議員だったノ・ムヒョン氏は党员にプレゼントしたいということで、約 2 万枚をまとめて購入されました。

神様の五回目の介入、88 オリンピック

1988 年 9 月 17 日から 10 月 2 日までソウルでオリンピックが開催されました。紛争や人種差別の葛藤と不和を解消した大会として、歴代最多である 159 カ国から 8,391 人の選手が参加しました。

この世界的な大行事が行われていたある日の夜明け、私はオリ

ンピックに参加した国々の国旗に興味が湧いてきました。アメリカ、カナダ、ドイツ、ソ連などの各国の国旗を並べてみると、とても素敵な絵柄となりました。オリンピックに参加した 159 カ国の国旗を 1 枚のスカーフとしてデザインし、そのスカーフを紹介するチラシを作って、選手村で配りました。これはオリンピックの参加選手と役員にとって、最高のオリンピック記念品となりました。この神様のアイデアは想像ができないほどの売上となりました。オリンピック期間中だけでなく、オリンピック後でも外国から次々と注文があり、発送作業でとても忙しくなりました。

神様の六回目の介入、地球儀

私は小学生に地球儀をプレゼントすることにしました。なぜなら、神様が作られた世界を子どもたちに見せたかったからです。そして、地球儀をプレゼントするとき、「地球儀を胸に抱きしめてみて! このように全世界に思いを馳せる人になってね」と伝えました。「地球にある約 200 の国の中、少なくとも 3 カ国以上は、あなたが責任を持って祈ってくださいね」とお願ひしました。

ですが、この地球儀は値段が高いだけでなく、持ち運べるものではなかったので、この点が残念でした。ある日、机の上にある地球儀に触れながら、息子に言いました。

「この地球儀を軽くして、どこでも持ち歩けるようになったらいいな」

「お母さん! ビーチボールにすればいいと思うよ」と息子は無邪気に答えましたが、とても良いアイデアであると感じました。ビーチボールを製造する際に、スイカや花、虹色のパターンのほかに、地球のものも作りました。ビーチボールのため、安くて、

軽くて、持ち運びができる、しかも、友達同士で遊べる地球儀となつたのです。

ただ、この地球のビーチボールを見た人々は、この柄は子どもたちが好まないので、売れないだろうと言っていました。ところが、地球のビーチボールは市販前から教育教材として選定されることが決まり、50万個を納品したのです。この神様のアイデアによって、売上をまた大きく伸ばしました。

神様の七番目の介入、水や火を選ばず

香港から水中眼鏡を仕入れました。倉庫にはすでに韓国製の水中眼鏡が準備されていましたので、倉庫は在庫であふれかえっていました。ところが、その年の韓国は冷夏となり、また台風が予想より早く上陸したため、海水浴場は早く閉鎖してしまいました。

山のように積もった水中眼鏡は来年の夏まで売れません。大量の在庫を抱える苦しみを誰が知っているでしょうか。どんなにアイデアを絞っても販売方法は思いつかず、その在庫を見ることさえも嫌になりました。



苦しい心を注ぎ出すかのように神様に祈りました。すると、聖霊様はむしろ他からも水中眼鏡を買い求めるようにと言われました。これまでの事業経験からは理解できませんでしたが、神様が言われるとおりに、他社の在庫分まで買い求めたのです。彼らはこの取引をあまり理解できずにいましたが、大量の在庫に困っていましたので、格安の値段かつ1年後の支払いという条件で購入することができました。ただ、私は神様がこの大量の水中眼鏡をどうされるのか疑問でした。

全国から売れ残った水中眼鏡が返品され始める8月下旬のある日、ある青年が私たちの店に来て、水中眼鏡を売っているかと尋ねてきました。私は単品では売っていないと答えましたが、この青年に時期外れの水中眼鏡をどのように使うのかについて質問しました。その青年は「デモの時に催涙弾で目が痛くならないようしたい」と答えたのです。

面白いアイデアが思い浮かびました。私はその青年に水中眼鏡10個を無料で渡しました。そして、すぐにアルバイトを募集し、倉庫に山積みとなっていた水中眼鏡を、催涙弾が発射されるデモの現場で売りました。とてもよく売れ、私たちは在庫を減らすことができ、デモの学生たちは催涙弾の煙から目を守ることができたのです。

これらのことがあってからは、私は仕事の方法を変えました。私の経験や常識から判断するのではなく、神様に知恵を求めるようにしたのです。また、市場を韓国から全世界に広げました。さらには、いつでも売ることができるという自信もつきました。

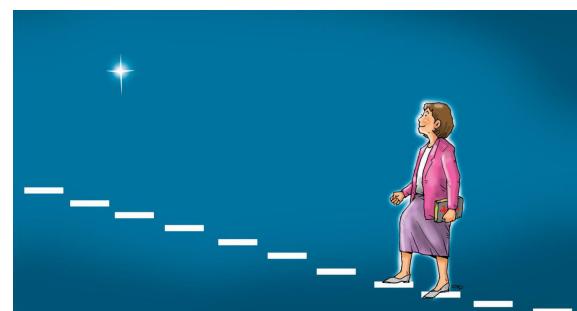
昨年の夏、大田でCBMC（キリスト実業家会）韓国大会が開かれました。その時、ウール布団で有名な会社が発表した売上目

標が印象的でした。彼の夢は「アフリカのすべての人々が羊毛布団を使うこと」でした。多くの人々は笑っていましたが、私はその社長が神様の販売戦略を知っていることに気づきました。

今は韓国だけでなく、全世界が経済危機で苦しんでいます。神様を信じるクリスチヤンも、その苦しい状況に陥っています。ある人は病気で体を壊し、別の人人は経済的なことで苦しんでいます。しかし、神様はそのピンチの中から私たちを救いたいと願われています。

どんな仕事であっても、どんな人に会っても、主に頼り、主に知恵を求めて進まなければなりません。私の経験、知恵、資産にこだわらず、自分が持っているものを神様のものとして事業をする必要があります。

私が三年ほどの経済的崩壊というトンネルを歩いている間、私がその暗闇の中で迷子とならないように、神様は私の手を握ってください、共にいてくださいました。主は私の協力者として山のような借金をすべて返済してくださいました。また、人から一切借りることなく、ただ神様のみに多くの借りを持つ牧会の道を歩むようにもしてくださいました。今は福音を伝える者として幸せに暮らしています。コロナによって経済的な苦境に陥っていますか？



神様に進んで助けを求めましょう。神様が私の人生に介入できるように、扉を開けて受け入れましょう。†

自分を捨てる指導者



それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」（マルコ8:34）

自分を捨てるとは、神の栄光のために自分をあきらめることです。自分の意思と欲を主にすべて明け渡すのです。真の精的指導者として神様が望む道を進もうとするならば、「私は何でもありません」と毎日告白し、自分を捨てる人生を生きなければなりません。

イエス様が道を歩かれていると、ある青年がイエス様に「永遠

の生命を受けるために、何をしたらいいのか」と尋ねました。彼に対するイエス様の返事と青年の反応です。

イエスは彼に目をとめ、いくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。(マルコ 10:21-22)

青年は永遠の生命を求めながらも、どうしても自分の財物をあきらめることができず、悲しみながらイエス様から去っていきました。私たちがイエス様に従おうとするとき、所有しているものをあきらめることよりさらに難しいのが、自分自身を捨てことです。神様に用いられる真の指導者となるには、お金、名誉など自分が持っているものを手放すだけでなく、自分のすべてを明け渡さなければなりません。古き人の姿、傲慢、不従順、否定的な考え、利己心などをすべて捨てなければなりません。

使徒パウロは、いわゆるエリートでした。良い家柄の出身でありながら、ローマの市民権も持っていました。最高のラビであるガマリエルから学んだ、将来が約束されていた青年でした。しかし、イエス様を信じてからは、自分の古き人をすべて捨てました。

しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損思っている。キリストのゆえに、わたしはすべて

を失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためにあり、律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。(ピリピ 3: 7-9)

ウィリアム・ボーデンのメモ「残さず、後退せず、後悔なく」

使徒パウロのように自分のすべてを捨てて、イエスの弟子になることを決心したウィリアム・ボーデンという方を紹介します。

ウィリアム・ボーデンは人並以上の資産を持っていました。彼は、今日の金額に換算すると、数十億ドルの資産を持つ酪農グループの相続者として生まれました。また、彼は名門大学の卒業生でもありました。米イェール大学とプリンストン大学院で学位を取得しました。しかし、彼は億万長者の道と名門大学の学位を後にして、イエスの弟子としてのみ記憶されることを願っていました。使徒パウロのように、彼が持っていたすべての資産をガラクタと思っていたのです。

彼にとって唯一の自慢はイエス様だけでした。ウィリアム・ボーデンは大学の入学前に1年間世界旅行をしましたが、その時、福音を知らない人々にイエス・キリストがどれほど必要なのかを切に悟りました。そして、世界宣教師という神様の御声を聞いて、中国の甘粛省にいるイスラム教徒に福音を伝えることを決断しました。

ところが、中国に行く前に、アラビア語を学ぼうと訪れたエジ

プトで脊髄膜炎にかかりました。そして、その一ヶ月後、彼は25歳でこの世を去るのです。ウィリアム・ボーデンの人生を見て、愚かだと言う人は多かったことでしょう。イエス様に従うために、家族と財産、将来までもすべて手放したのに、宣教を始めることすらできずに亡くなつたためです。

しかし、イェール大学在学中のウィリアム・ボーデンは、大学の靈的リバイバルに力を注ぎ、数多くの人を伝道しました。また、彼の話を聞いた数千人が宣教師になると決心しました。彼の人生は失敗ではありません。むしろ、靈的指導者としてイエス・キリストに従う真の弟子の人生を見せてくれました。ウィリアム・ボーデンが亡くなった後、彼の聖書の中から次のようなメモが発見されました。

「残さず (No Reserves)、後退せず (No Retreats)、後悔なく (No Regrets)」

ウィリアム・ボーデンは、イエス様に従うためには完全な献身が必要で、後ろを振り返ってはならないという事実を知っていたのです。彼が大学時代に残したこのメモは、今でも私たちの覚悟を新しくしてくれます。

『ファンなのか、弟子なのか』の著者であり、米国サウスイースト・クリスチヤン教会の担任牧師であるカイル・アイドルマンは次のように話しました。「いつも自分には『ノー (No)』と言い、イエス様には『イエス (Yes)』と言ってください。自分を捨てるとき、私たちはイエス様の眞の弟子になれます」。

自分を捨てるとは、自分を否定し、代わりに主を認めることで

す。私が何でもない存在と認めるとき、神様が私を通して働かれます。自分を捨てなければなりません。自分を特別な存在だと考えた瞬間、問題が生じます。自分を捨てなければならないのに、この世の地位や財産のことを考えてしまうと、それが難しくなるのです。

自分を捨てるとは、私たちが生涯をかけて取り組むべき課題です。「私は何でもありません。主だけが私のすべてです」と、常に主に告白しなさい。イエス様だけを認め、イエス様だけを表す人生を生きなさい。それが眞の指導者の道です。†

親を敬うことで受ける祝福



“

お元気ですか？ イエス院での生活が今でも忘れられません。私はイエス院で人を愛することと仕える心を学びました。でも、私は両親の愛をまだ信じることができます、感じることもできず、また両親を敬愛する気持ちにもなれません。両親は私の心を傷つけるだけです。このような状況ですが、どのように祈り、どのように両親と接すればよいのでしょうか？

——キム・ボギョンより

”

ボギョン姉妹へ

姉妹、お元気ですか？ イエス様の中で聖霊様の助けを受けながら生活されていると思います。送ってくださった手紙は、さまざまに良い知らせと一緒に喜びながら拝読しました。

手紙からは姉妹の悩む姿が見受けられます。この問題は本当に重要かつ深刻な問題です。これは姉妹だけでなく、多くの人々にも当たはまる問題ですので、少々長くなりますが、詳しく説明しましょう。

愛と尊敬、そして従順について

第一に、聖書には「両親を愛しなさい」という御言葉よりも、「敬いなさい」という御言葉のほうが多く書かれています。愛さなくても、尊敬することはできます。なぜなら、愛は心で感じるものですが、尊敬は行動だからです。

私が誰かを愛さなくても、つまり、私の心が感じる思いを正せなくとも、理性で正しい行動をしたり、良い言葉を選んだり、悪い言葉を控えたりすることはできます。私たちは感情で生きる人になってはならず、主の御心のままに生きる人にならなければなりません。

では、主の御心は何でしょうか？ エペソ人への手紙 6 章 1~3 節には「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。あなたの父と母とを敬え。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」とあります。

この「主の中で従順する」という御言葉の真意は何でしょうか。もちろん、無条件な従順は神様だけに向けられるもので、子どもは成長しながら、両親より神様に従順することを学ばなければなりません。

では、いつまででしょうか？ 子どもが十分な判断力を持つようになり、主の中で親の言うことに従わなくてもよくなる時期はいつになりますか？ 大学生になれば十分な判断力を持つと考える人がいます。また、教会に通い始めたときから、両親の代わ

りに教会や牧師に従順しなければならないと考える人もいます。

しかし、聖書の教えは明確で、それは結婚するまでです。創世記2章24節の「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」という御言葉にはっきりと示されています。韓国の昔の風習にも似たものがあり、男性は結婚すると笠をかぶります。

両親の尊敬と家族の重要性

愛することは難しくても、従順は比較的簡単です。そのため「愛せ」ではなく、「従順せよ」となっているのです。「結婚して両親を離れ、妻と夫がひとつになる」とは、親への従順の終了を意味します。しかし、敬うことを止めるわけではありません。

テモテへの第一の手紙5章8節には「もしもある人がその親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上に悪い」とあります。親を離れて妻とひとつになっても、親の面倒を見る必要があります。両親が亡くなるまで、子には責任があります。もちろん、他の兄弟が面倒を見るのでしたら、それでもよいのですが、それでも子の責任が完全になくなるわけではありません。

それでは神様は愛に無関心なのでしょうか？　いいえ、違います。神様は「隣人を愛し、敵も愛しなさい」と言われますが、具体的な話になると「一人だけを愛しなさい」と言われます。エペソ人への手紙5章25節には「夫たる者よ、… 妻を愛しなさい」という命令があります。

他人を愛することは、主の中で成長しながら、聖霊様の助けによって達成される目標ですが、夫には今すぐ妻を愛する義務があるのです。なぜでしょうか？　私が思うに、すべての生活、すべての事柄、すべての倫理、すべての教育が家庭から始まり、家族が教会の核心だからです。

家族の指導者は父親です。夫が妻を愛することから、すべての愛が始まります。もし、父親が母親を愛していないければ、子どもたちは戸惑い、社会は安全ではなくなり、教会も完全ではなくなります。

姉妹に伝える五つの勧め

姉妹の質問は「親の愛を感じることができないし、信じることもできないから、どうしよう」ということでした。これに対して以下の5項目を推奨します。

第一に、家で両親に従順し、結婚するまで自分のすべての義務を果たせるよう、主に恵みを求めてください。愛と喜びと忍耐と忠誠と善良の実を結べるように、聖霊様が助けてください。そして、実を結ぶ信者となるために、聖書をいつでも読んで黙想し、祈りましょう。

第二に、両親から受けた心の傷がすべていやされるように祈ってください。イザヤ書53章3~5節によると、イエス様は私たちがいやされるために苦難を受けられたのです。この事実を悟り、記憶に残っている傷を一つずつ委ねて、忘れてください。そのように潜在意識の中に隠れているすべての傷のために祈れば、イエ

ス様がいやしてくださいます（詩篇 34:18、147:3 参照）。

第三に、両親をゆるす力が与えられるように祈ってください。マタイによる福音書 18 章 35 節には「ゆるさないと、ゆるされない」とあります。

第四に、両親自身が幼い頃に受けた傷があるはずですから、両親の傷をいやしてくださいるように祈る必要があります。両親の受けた傷が潜在意識の中に残っていても、両親自身はそのことを忘れているので、イエス様を信じているあなたが両親の心の傷のために祈ってあげるのです。

出エジプト 20 章 5 節にある「三代、四代まで」の意味は何でしょうか。神様を信じない両親が自分の子どもたちにさまざまな傷を与え、その子どもたちが成長して子どもを産むと、自分がされたように自分の子どもを傷つけてしまいます。こうして三代、四代まで傷が続いていくのです。しかし、イエス様のいやしによって傷の連鎖は断ち切られ、千代までの祝福がスタートするのです。

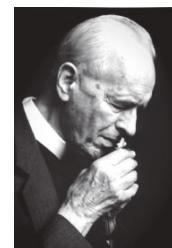
第五に、最初に述べたように、聖霊の実を結ぶ人、すなわち愛と喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔軟、自制の実を結ぶ人になれるよう、より一層祈ってください。ピリピ人への手紙 3 章 13～14 節を読んでみてください。

「兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標をめざして走り、キリスト・イエスにおいて、上に召してください神の賞与を得ようと努めてい

るのである」

ボギョン姉妹！ 私たちの模範となり、私たちに助け主を送ってくださったイエス様が、姉妹とご両親のために、万事が美しく成就するようにしてくださることを期待しながら、ここで筆を置きます。

「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。あなたの父と母とを敬え。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている。そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」（エペソ 6:1～3）†



デ・チヨンドク神父 (R. A. Torrey 三世)

1918 年、中国山東省で長老教会のアメリカ人宣教師の息子として生まれ、中国と平壤で幼年時代を過ごしました。アメリカのプリンストン神学校で学び、聖公会に席を移したあとは、1949 年に聖公会の司祭となりました。1957 年に韓国に来て、2002 年に召天するまでの 45 年間、韓国で主の働きをしました。1965 年、江原道太白市にイエス院を設立して活動しているうちに有名になり、聖霊論と共同体に関する教えを通して、韓国の教会とクリスチャンに大きな影響を与えました。



レビ記では、らい病に関する箇所は、幕屋での礼拝や祭司に関するものと同じくらい詳細に書かれています。祭司の主な働きは、民のためのあがないと、祝福の通路として祭壇の前で礼拝を捧げることです。また、祭司には、らい病患者の患部を診断して清め、礼拝を捧げる働きもありました。「聖とは、まるで私たちの身体のらい病がいやされて清くなることだ」とレビ記に書かれています。

現代、最も多い死因は『がん』です。がんとらい病は異なる病気ですが、非常に似た性質を持っています。身体の免疫機能が低下すると、体内に生じたがん細胞を攻撃して取り除くことができなくなります。すると、がんは各種の栄養を吸収して成長します。小さかったがん細胞は徐々に大きくなり、死に至るまで身体全体に増殖するのです。

らい病は、人の身体の一部である細胞と肢体を攻撃する病です。がんとは別物のようですが、どちらの病も自身の肢体に関しては同じように認識します。らい病の症状として、目、鼻、口、指などの部位が身体の一部ではなく異物としてみなされて、攻撃を受けて欠損するのが見られます。

「目は手にむかって、『おまえはいらない』とは言えず、また頭は足にむかって、『おまえはいらない』とも言えない」(Iコリント 12:21)

らい病の語源は「打ちくだく」という言葉です。これは神様が打ちくだくという意味にもとますが、らい病は身体の肢体が互いを殺そうとする病気なのです。そして、分裂させ互いに殺し合わせること、これはサタンの策略そのものです。人に対する暴力は、言葉や行動、態度として表れます。敵意を持つことは一種のまじないと同類であると聖書は教えていました。

「偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、宴樂、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言っておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない」(ガラテヤ 5:20～21)

らい病はそしりの病です。モーセを非難した彼の姉ミリアムに下された刑罰は、らい病でした。神様の御心より自分の思いを優先して兄弟姉妹を非難すること、これがらい病です。らい病は肢体の破壊を引き起こします。教会と共同体の中から、そしりの靈を追い出さなければなりません。時々、ある人たちは非難を楽しんでいます。しかし、誰かを非難することは、らい病の致命的な

病原菌にさらされるのと同じです。ですので、神様は批判を捨てるようにおっしゃっています。

「しかし今は、これらいっさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥すべき言葉を、捨ててしまいなさい」（コロサイ 3:8）

らい病のいやし

世代、性別、地域、政治などの理由で分裂し、お互いを敵と認識するこの長年のらい病から、私たちはどうすればいやされ、清くなれるのでしょうか？　らい病は自分の努力でいやせるものではありません。神様の超自然的ないやしでなければ、らい病はいやされないのであります。だからこそ、レビ記では、らい病のいやしに関することに礼拝と祭司が登場するのです。

「らい病人が清い者とされる時のおきては次のとおりである。すなわち、その人を祭司のもとに連れて行き」（レビ記 14:2）

らい病の患者が祭司の前に出て来ること、これは最も汚れた人と最も清い人の出会いであり連合です。以前は敵として離されていた者たちに与えられた『完全ないやし』です。

祭司の聖が完成するのは、聖所ではなく、らい病患者との出会いでした。完全なる聖とは、最も汚れたらい病患者をいやす神の性質を備えることです。祭司は宿営の内だけに留まるのではなく、失われた羊、隔離されたらい病患者たちのために、宿営の外に出て行かなければならないのです。

らい病のいやしとは、世界中が憎しみと敵意の呪いから離れ、互いに愛し合い、肢体として認め合うことを意味します。そして、すべての国々と組織が憎しみから分離し、悔い改め、お互いのために自身が犠牲となることで、らい病の回復は完成します。個人が救いを受けることだけに焦点を合わせてきた私たちには見慣れない概念です。しかし、イエス様は「聖とは憎んでいた敵を愛するようになることだ」と語られ、それをご自身の生き方で示されました。

人間が神様から遠ざかったとき、兄カインが弟アベルを殺す事件が起きました。逆に私たちが神様に近づくと、お互いが肢体であることを知り、お互いを顧みて守り、足りない部分があっても共に生きようと努力します。そして、身体のいやしが起こります。これがレビ記が示している礼拝です。

話は変わり、1959年放映の映画『ベン・ハー』を見てみましょう。主人公のユダヤ人ベン・ハーは濡れ衣を着せられ、ローマのガレ一船の奴隸になるという悲劇に遭います。不幸がさらに重なり、彼の母と妹はらい病患者になります。あらゆる苦難の末、ベン・ハーは復讐の刃物を持って故郷エルサレムに戻ります。聞き回った末にやっと母と妹に会うことができるも、彼女らはらい病患者として村の外のらい病患者用の洞穴に住んでいました。

らい病患者村の筵（むしろ）の上で家族と再会するという絶望の中で、この病をいやせる唯一の人がいるといううわさを聞きます。それはイエスでした。ベン・ハーが苦労の末にイエスを見つけたのは、イエスが十字架を背負ってゴルゴダに登る途中のことでした。

ベン・ハーは、彼が最も過酷な状況のときに水を飲ませてくれた青年のことを思い出し、倒れたイエスを抱き起こして水を飲ませます。十字架の処刑が行われた悲劇の瞬間、驚くことにベン・ハーの母と妹のらい病がいやされました。ベン・ハーは「彼の声が私の手から刃物を奪っていった」と告白します。

らい病のいやしは、肢体に向けた刃物を捨ててしまうことです。そのために死なれたイエス・キリストの十字架の愛により、この地に真のいやしが起きることを祈ります。†

発行：純福音東京教会 文書宣教会・しなんげ出版部

【翻 訳】趙榮珍 執事、李力レン 執事、林俊秀 教育生、李珍 執事、朴宰完 按手執事、
青年部翻訳チーム、金澤由紀子 助士

【日本語校正】垣内温子姉妹、今村和世 執事、吉田綾子 執事、向川誉 執事、澤田義則 執事

【監 修】向川誉 執事

【印刷・製本】間杉典生 按手執事

【再 編 集】金澤由紀子 助士

しなんげ

6
2022

愛する者よ。
あなたのたましいが
いつも恵まれていると同じく、
あなたがすべてのことに恵まれ、
またすぐやかであるようにと、
わたしは祈っている。(ヨハネ 1:2)

